

メッセージ: 1 歩 1 歩、着実に

OIC の皆様おはようございます。
ようこそ天の父なる神の家へ来られました。

前回のヨシュア記のメッセージで、私は次のようなコメントで締めくくりました:

私たち一人ひとりに、自分だけの越えられないヨルダン川があります。私たちは祈りの力を決して忘れてはなりません。あなたの小さな信仰や人間の弱さを見てはいけません。しかし、私たちの主イエス様の誠実さを見てください。イエス様の異父兄弟ヤコブが書いた<ヤコブの手紙 5 章 16 節-17 節>で、神様の力の預言者エリヤの人間的弱さを示しました。

<ヤコブの手紙 5 章 16 節-17 節>

16 ですから、互いに罪を告白し、祈り合いなさい。正しい人の祈りは大きな力があり、驚くほどの効果があります。

17 エリヤは私たちと変わらない人でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ると、三年半ものあいだ一滴の雨も降りませんでした。

神様の力を信じ、強く、粘り強く祈りましょう。

私は、ヨシュアとイスラエの民が神様に従い、従うために取った勇気ある一歩ずつを黙想し、このメッセージのタイトルを「1 歩 1 歩、着実に」としました。「1 歩 1 歩、着実に」という言葉でわたしは 1990 年代のアメリカのクリスチャン賛美を思い出しました。

神よ、あなたは私の神、私はいつもあなたを賛美します。
わたしは朝、あなたを求め、あなたの道を知ることを学びます。
一歩一歩、あなたは私を導いてくださいます。
そして、私は私の日々のすべてをあなたに従います。

私たちのヨルダン川横断の記念碑

今日、私達はヨシュアとイスラエルの民の約束の地での最初の日々を追います。<ヨシュア記 4 章 4 節-7 節>を読みます。

<ヨシュア記 4 章 4 節-7 節>

4 ヨシュアは十二人を呼び出し、

5 こう命じました。「あの契約の箱のある川の真ん中に行き、一つずつ石を肩にかついで来なさい。それぞれ一つずつ、全部で十二だ。それらは十二部族を象徴する。

6 その十二の石で記念碑を建てよう。そうすれば、将来、子どもたちに『これは何の記念碑ですか』と尋ねられて、

7『ヨルダン川を主の箱が渡った時、水がせき止められたことを忘れないための碑だよ』と話して聞かせることができる。この記念碑は、偉大な奇跡をイスラエル人が永久に忘れないためのものだ。」

先週3月30日、『越えられない川』と題したメッセージで申し上げた通りです：すべてのクリスチャンは、歴史上最も重要な奇跡を自分の人生に持っています。すべてのクリスチャンは、歴史上最も重要な奇跡を自分の人生に持っているとは、神様がイエス・キリストを墓からよみがえらせたということです。神様がイエス・キリストを墓からよみがえらせたということは、イエス様を信じる者にとってだれでも、人類に対する地獄の計画をすべて覆すものでした。イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンは、神様によって川の水がせき止められ川の水が干上がった人生の川底を渡り歩きながら、新しい人生を歩み始めます。イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンの罪の川は取り除かれました。イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンの罪はイエス様とともに十字架に釘付けにされました。

イエス・キリストを信じるという信仰の贈り物によって私たちの罪のヨルダン川が干上がり、私たちが救いを受け取ったことを神様によく感謝することを忘れないことが大切です。しかし同時に、この偉大な救いを私たちの子供たちに伝えることも私たちの義務です。幼い子どもたちは、大人が悟る以上に霊的な真理を理解し、「感じます」。だからこそ、イエス様は＜ルカの福音書18章16節＞で大胆にこう言われたのです。

＜ルカの福音書18章16節-17節＞

16するとイエスは、子どもたちを呼び寄せ、弟子たちに言われました。「いいから、子どもたちを自由に来させなさい。追い返してはいけません。」

＜ヨシュア記4章8節-9節＞

8十二人はヨシュアの命令に従い、川の真ん中から十二の石を拾いました。主がヨシュアに命じたとおりに、彼らはそれらの石を野营地まで運び、記念碑を建てました。

9ヨシュアはまた、川の真ん中の祭司たちが立っていた場所にも、十二の石で記念碑を築きました。それは今もそこに建っています。

ヨシュア記はヨシュアによって書かれました。つまり、紀元前1410年頃ということになります。そこで神様は、ご自分の民に思い起こさせるために、十二の石で築いた石碑を何年もそこに置いておかれました。紀元前700年から紀元前600年にかけて、侵略してきたアッシリア人とバビロニア人がこのような宗教的モニュメントを破壊したのではないと私は思っています。

＜ヨシュア記4章10節-11節＞を読みます。

＜ヨシュア記4章10節-11節＞

10箱をかついでいた祭司たちは、モーセからヨシュアに与えられた主の命令がことごとく成し遂げられるまで、川の真ん中に立ち続けていました。その間に、人々は急いで川を渡ったのです。

11全員が渡り終えると、みなの見守る中で、箱をかついだ祭司たちが、川から上がって先頭に立ちました。

越えられない川を越える従順

<ヨシュア記 4 章 10 節>で、「箱をかついでいた祭司たちは、モーセからヨシュアに与えられた主の命令がことごとく成し遂げられるまで」という従順なイスラエルの民に注目します。私たちクリスチャンには、「恩寵を受ける」や「身に余る好意を受ける」を含む神様の素晴らしい約束があります。つまり、私たちがこの罪の世界でイエス様とともに天国に向かって歩むとき、神様は日々私たちに「身に余る好意」をそれ以上に与えてくださるということです。イエス様は十字架で私たちの罪の罰を贖ってくださったから、私たちの罪をすぐに赦してくださいます。使徒ペテロとパウロによる多くの手紙は、「恵みと平和」で始まり、「恵みと平和」で終わり、イエス様を信じる者のための祈りと励ましで終わっています。私たちは不可能な、あるいは、越えられない川にたどり着くまではイエス様への愛に心が燃えていたかもしれません。

それから、私たちはこの新たな挑戦に対する恐れや不安から硬直してしまうかもしれません。神様の恩寵を否定することなく、私たちは私たちの信仰に対する挑戦の中で、時には自分自信が謙虚にならなければなりません。私たちはクリスチャンとして、イエス様が<マタイの福音書 13 章 15 節>で叱責された、または、叱られた人々のように、時には振る舞ってしまうことがあることを認めなければなりません。

<マタイの福音書 13 章 15 節>

その心は肥えて鈍くなり、その耳は遠く、その目は閉じられている。彼らは見もせず、聞きもせず、理解もせず、神に立ち返って、わたしにいやされることがない。』（イザヤ 6・9—10）

イエス様を信じていない人とは違って、私たちイエス様を信じている人はイエス様に心に向け頼ることができ、イエス様は私たちを癒してくださいます。イエス様は私たちの心を和らげ、イエス様の愛をもってイエス様の指示を聞けるようにしていただきます。聖霊なる神様は、「私たち個人の」危険で、渡ることのできないヨルダン川に、次の一步を踏み出す勇気を与えてくださいます。<ペテロの手紙Ⅱ 3 章 18 節>を通して神様が約束されたとおりです。

<ペテロの手紙Ⅱ 3 章 18 節>

そして、主であり救い主であるイエス・キリストをさらに深く知って、主の恵みと知識において成長しなさい。このキリストに、すべての栄光が、今も後も、永遠にいつまでもありますように。アーメン。 ペテロ

そして<ヘブル人への手紙 4 章 16 節>

ですから躊躇せず、神の御座に近づいてあわれみを受け、時にかなって与えられる恵みをいただこうではありませんか。

私たちが越えられないヨルダン川で最も恵みを必要としています。イエス様の恵みは、私たちが越えられないヨルダン川の中へ次のステップを踏み出すために従順であることを引き起こしてくださいます。私たちが越えられないヨルダン川を渡った後、私たちは<コリント人への手紙Ⅱ 3 章 18 節>のような経験をします。

<コリント人への手紙Ⅱ 3章 18節>

18 そしてモーセのように、栄光の消えていく様子をイスラエルの人々から隠すため、顔に覆いをかけたりはしません。

こうして私たちは、「主の聖霊なる神様とともに、栄光から栄光へと」変えられるために、「恩寵には恩寵を」受けるのです。つまり、私たちの信仰のあらゆるテスト、人生におけるあらゆる試練は、私たちをさらに栄光から栄光へ、栄光の王の御子であられるイエス様のようにするためのものなのです。

ヨルダン川の干上がった川底を急ぎ足で駆け抜けたイスラエルの民には、どんな思いがあったのでしょうか。たぶんこうでしょうか。「神様は偉大だ。私は成功した。これで安心して約束の地に居ながらくつろげる！」しかし...正確には違います！次の節の<ヨシュア記 4章 12節-13節>で言っています。

<ヨシュア記 4章 12節-13節>

12・13 武装したルベン族とガド族、それにマナセの半部族からなる四万人の軍勢は一隊となり、主のために戦う他部族の先頭に立って、エリコの平原を目指して進みました。

イスラエルの民の地上の指導者ヨシュアは、「約束の地を完全に所有する」ためには激しい戦いが待ち受けていることを知っていました。今日のクリスチャンは、イスラエルの民のように、イエス様とともに前進する奇跡は、特に次のステップに進む前に、しばしば敵との衝突を含むことを知るべきです。私たちの人生には平和の王なる神様の御子の臨在がありますが、私たちはまだ天国にはいません。天国で私たちはイエス様と一緒にになり、サタンは入場を禁じられます。ルベン部族、ガド部族、マナセの半部族の武装した戦士たちが、イスラエルの民を率いてヨルダンを渡ったとき、イスラエルの民は戦いに備えていました。武装した部族と同様か同じように、すべてのクリスチャンは神様の武具を必要としています。<エペソ人への手紙 6章 10節-11節>で、すべてのクリスチャンは神様の武具を必要としているとクリスチャンに教えたのは、モーセではなくパウロでした。

<エペソ人への手紙 6章 10節-11節>

10 最後に、覚えておいてほしいことがあります。あなたがたは、自分のうちにある主の全能の力によって強められるようにしてください。

11 悪魔のどんな策略にも立ち向かえるように、神のすべての武具で身をかためなさい。

クリスチャンの悪魔との戦いの結果は疑問ではありません。神様の武具で戦うことを望むクリスチャンは、人生のあらゆる分野で勝利を保証されます。<エペソ人への手紙 6章 11節>にそう書いてあります。

<エペソ人への手紙 6章 11節>

11 悪魔のどんな策略にも立ち向かえるように、神のすべての武具で身をかためなさい。

次に<ヨシュア記 4章 14節>を読みます。

<ヨシュア記 4章 14節>

その日は、ヨシュアにとって生涯忘れることのできない日となりました。主はイスラエル人全員の目の前で、ヨシュアに大きな栄誉を与えたのです。人々は、モーセを敬ったと同じようにヨシュアを心から敬いました。

ヨシュアはようやく「ヨシュアの神様のための働きに確信」を手に入れました。ヨシュアは、ボスである主なる神様から自由に聞き、イスラエルの民の大共同体に自信を持って指示を与えることができました。

それから＜ヨシュア記 4 章 15 節-20 節＞に、

＜ヨシュア記 4 章 15 節-20 節＞

15 ・ 16 ヨシュアこそが主の命を受けて、契約の箱をかつぐ祭司たちに命令を下した人だったからです。「川から上がりなさい」と祭司たちに命じるよう、主はヨシュアを促しました。

17 ヨシュアがそのとおりに命じ、

18 祭司たちが川から上がると、たちまち水は元どおりに流れ込み、岸いっぱいにあふれました。**19** この奇跡が起こったのは第一の月の十日（太陽暦の三月二十四日）のことです。この日、全イスラエルはヨルダン川を渡り、エリコの町の東方にあるギルガルに宿営しました。

20 このギルガルに、ヨルダン川から運んだ十二の石を積み上げ、記念碑を建てました。

約束の地を手に入れたイスラエルは、ほとんどの都市やキャンプ地の名前を変えました。イスラエルはエリコの町の東方に宿営を「roll順調に勝ち進む」という意味の「ギルガル」と呼びました。これについては、後ほど＜ヨシュア記 5 章 9 節＞で説明します。

＜ヨシュア記 4 章 21 節-24 節＞に

21 その時ヨシュアは、その意味について説明しました。「いつの日か、子どもたちが、『なぜここに、こんな石が置いてあるのですか。これはどういう意味ですか』と尋ねる時がくるだろう。

22 その時には、この十二の石は、イスラエル人がヨルダン川の乾いた土の上を渡ったのだと教えてやりなさい。

23 さらに、その時どのようにして主が、われわれの目の前で川の水をからし、全員が渡り終えるまで乾いたままにしておかれたかを教えなさい。それはまさに、四十年前の紅海での出来事と同じである。

24 主がこうなされたのは、全世界の国民が、イスラエルの神である主こそ力ある唯一の神であると悟り、さらにあなたがたがみな、この主をいつも礼拝するようになるためなのだ。」

そこでヨシュアは、良き教師として、＜ヨシュア記 4 章 6 節-7 節＞で 12 石の記念碑についてイスラエルの民衆に語ったことを繰り返します。しかし今、ヨシュアはイスラエルの人々が見た奇跡を強調しています。

＜ヨシュア記 4 章 22 節-24 節＞

22 その時には、この十二の石は、イスラエル人がヨルダン川の乾いた土の上を渡ったのだと教えてやりなさい。

23 さらに、その時どのようにして主が、われわれの目の前で川の水をからし、全員が渡り終えるまで乾いたままにしておかれたかを教えなさい。それはまさに、四十年前の紅海での出来事と同じである。

24 主がこうなされたのは、全世界の国民が、イスラエルの神である主こそ力ある唯一の神であると悟り、さらにあなたがたがみな、この主をいつも礼拝するようになるためなのだ。」

イエス様が地上に来られたとき、神様がどのようなお方であることを完全に明らかにされ、示されました。聖書は＜ヨハネの福音書 1 章 18 節＞に私たちに語っているからです。

＜ヨハネの福音書 1 章 18 節＞

いまだかつて、実際に神を見た人はいません。しかし、神のひとり子だけは別です。御子は父なる神といつもいっしょですから、神について知っていることを教えてくださいました。

イエス様が神様の言葉であられるように、＜ヨハネの福音書 1 章 18 節＞から私たちが想像できる、より良いスピーチの形があります。

＜ヨハネの福音書 1 章 18 節＞

いまだかつて、実際に神を見た人はいません。しかし、神のひとり子だけは別です。御子は父なる神といつもいっしょですから、神について知っていることを教えてくださいました。

つまり、＜ヨハネの福音書 1 章 18 節＞は神様の言葉が私たちに神様を説明されたと考えるのが正しいのです。だから、イスラエルの民は、＜箴言 9 篇 10 節＞のように、最優先事項、つまり最重要テーマとして心に留めておく必要がありました。

＜箴言 9 篇 10 節＞

知恵の基本は、主を恐れ、大切にすることです。物事がよくわかるようにしたければ、まず神を知りなさい。

ここに 3 つのポイントがあります。

- 1) イエス様を信じていない者がイエス様を救い主として呼ぶには、しばしば最後の審判への恐れが必要です。
- 2) イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンは、「神様がイエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンを親愛なる子供として愛している」ということを、最優先事項、つまり最重要のテーマとして記憶し、維持する必要があります。＜ヨハネの手紙 I 3 章 1 節＞で語っています。

＜ヨハネの手紙 I 3 章 1 節＞

天の父は、どんなに私たちを愛しておられることでしょうか。私たちを、ご自分の子どもとして受け入れてくださったほどです。考えてもごらんなさい。神の子どもとされたのです。ところが、神を知らない多くの人は、当然、私たちが神の子どもであることを理解できません。

- 3) イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンは、自分が犯した罪を確信するとき、やはりある種の恐怖感を必要とします。自分が犯した罪を確信するときのある種の恐怖感は謙虚な態度であり、神様の子らを神様から遠ざけるのではなく、神様に向

かって走らせるものです。

<ヨシュア記 5 章 1 節>

ヨルダン川の西側の諸国民、エモリ人および地中海沿岸に住むカナン人の王はみな、主がヨルダン川の水をからし、イスラエル人が川を渡って来たと聞いて、すっかり意気阻喪し、恐怖におののきました。

私が知っていることをもう一度言います。私たちの霊的敵である悪魔は、すべてのクリスチャンを恐れています。私たちの霊的敵である悪魔はすべてのクリスチャンを恐れているということは、イエス様を信じる弱い信仰者と強い信仰者が含まれます。クリスチャンは皆、イエス様が十字架上で悪魔を打ち負かしたことを思い出すからです。イエス様の十字架はイエス様が悪魔の頭を打った場所です。悪魔が真のクリスチャンを見るときはいつも、イエス様を見て……悪魔は震え上がります！

戦争に踏み込む…まだです

さて、イスラエルの民は、自信と戦いの武器に頼って、エリコに向かって突進することでもできたことでしょう。しかし、アブラハム、イサク、ヤコブの神様であられる主は、イスラエルの民の力がどこから来るのかをヨシュアに明らかにされました。神様は割礼の契約によって、父アブラハムの信仰を新たにすることを求めておられます。<ヨシュア記 5 章 2 節-3 節>を読みます。

<ヨシュア記 5 章 2 節-3 節>

2 その時、主はヨシュアに、「日を定めて、イスラエルの男子全員に割礼（男子が生まれて八日目にその性器の包皮を切り取る儀式）を施しなさい」と命じました。この儀式が行われたのは、イスラエルの歴史上、二度目のことです。主は、このために火打ち石でナイフを作るよう指示しました。この時の場所は「包皮の丘」と呼ばれています。

<創世記 17 章 9 節- 11 節>

9 ・ 10 あなたは契約の条件を忠実に守らなければならない。あなたもあなたの子孫も、一人残らずそうしなければならない。その条件とは、男子はみな割礼を受けるということ、**11** つまり、性器の包皮の一部を切り取ることが、あなたがたがこの契約を受け入れたしるしとなる。

神様とアブラハムの契約は、まず第一に信仰の契約であったことを覚えておくことは重要です。使徒パウロは<ローマ人への手紙 4 章 3 節>で神様とアブラハムの契約は、まず第一に信仰の契約であったことを明らかにしています。

<ローマ人への手紙 4 章 3 節>

というのは聖書に、「アブラハムは神を信じた。それがアブラハムの義と認められた」（創世 15 ・ 6）と書いてあるからです。

神様の願いと意図は、すべてのイスラエルの民が神様に信仰をもつことでした。主との契約を守ることを示す表向きのイスラエルの民の誓約の印が割礼でした。

次の<ヨシュア記 5 章 4 節-8 節>で、

<ヨシュア記 5 章 4 節-8 節>

4・5 二度目の割礼の儀式を行った理由はこうです。イスラエルがエジプトを出た時、兵役に就く年齢の男子は、すべて割礼を受けていました。しかしその世代の人々はみな、荒野を旅する間に死んでしまい、その後に生まれた子どもたちは、だれ一人割礼を受けていなかったのです。

6 イスラエルの民は四十年荒野をさまよい歩き、エジプトを出た時に兵役に就く年齢にあった男子は、ついに死に絶えました。彼らが主に従わなかったので、約束されていた乳とみつの流れる地に入らせないと主は誓ったのです。

7 ですから今、ヨシュアは彼らに代わって息子たちに割礼を施したのです。

8・(9) 主はヨシュアに語りました。「今日わたしは、割礼を受けていないという恥をあなたがたから取り除いた。」それで、この出来事のあった場所はギルガル〔「終わらせる」の意〕と呼ばれ、現在でもそう呼ばれています。割礼を終えたのちも、彼らは傷が治るまで宿営にとどまっていたのです。

信仰と愚かさ

イエス様はしばしば、世間や、あるいは一部のクリスチャンにさえ愚かだと言われるようなことをするように、ご自分の民に求められます。イスラエルの民のリーダー、ヨシュアをはじめとする陣営の男性たちは、圧倒的不利な状況の中で血みどろの戦いを戦ってきました。イスラエルの民が荒野を旅していた時のことでした。国々を通してイスラエルの民を最も有名にしたのは、＜民数記 21 章 21 節-25 節＞に記されているものです：

＜民数記 21 章 21 節-25 節＞

21 イスラエルは、エモリ人の王シホンに使者を送りました。

22 「どうか、領内を通らせてください。国境を越えるまでは、決して街道からそれたりしません。畑を踏み荒らしかし、王は承知しませんでした。それどころか軍を集め、わざわざ荒野に出て、ヤハツで戦いをしかけてきたのです。

24 ところが王は戦死し、勝ったのはイスラエル人のほうでした。結局、アルノン川から、北はヤボク川、東はアモンとの国境までを占領しました。アモンとの国境は地形が険しく、それ以上は進めなかったのです。

25・26 こうしてイスラエルはエモリ人の国を占領し、そこに住みつきました。首都だったヘシュボンもイスラエル人のものになりました。シホン王は以前にモアブを治めていた王と戦って勝ち、アルノン川までの全土を占領していたのです。

ヨルダン川を渡ったイスラエルの民は、剣と槍を携えて再び準備を整えました。しかし、主はまず霊的な刷新を求められました。この霊的な更新は割礼の契約への従順でした。そのため、イスラエル軍の兵士たちは敵地で野営していました。しかしそれから、主は割礼の後、癒しのためにしばらくの間、イスラエル軍の兵士たちを戦闘不能にされました。あなたが神様から本当に御声を聞くときはいつでも、愚かな非難など気にしないことです。神様は選ばれた民のすべての敵の強さと居場所を知っておられます...その当時も今も！

新約聖書一心の割礼

イエス様はすべてのイエス様を信じる者を律法の要求から解放されました。すべてのイエス様を信じる者には、アブラハムの生物学的子孫であるユダヤ人と異邦人のイエス様を信じる者が含まれます。.

使徒パウロはコロサイのクリスチャンたちに、イエス様を信じる者は律法の要求から解放されたことを＜コロサイ人への手紙 2 章 10 節-12 節＞に教えています。

＜コロサイ人への手紙 2 章 10 節-12 節＞

10 ですから、キリストを自分のものとしているなら、すべてを手に入れたことになります。あなたがたはキリストと結びつくことによって神に満たされているのです。キリストは、すべての力を従えた、権威ある、最高の支配者です。

11 あなたがたがクリスチャンになった時、キリストはあなたがたを、罪に支配された古い性質から解放してくださいました。それは、割礼という肉体の手術によってではなく、心のバプテスマ（洗礼）という霊的な手術によってなされたことです。

12 ですから、古い性質はキリストと共に死に、共に葬られたのです。そして、キリストを死者の中から復活させた、力ある神のこぼれを信じたあなたがたは、キリストと共に、新しいいのちへと復活させていただいたのです。

イエス様を信じるユダヤ人は、割礼を含め、自分たちの伝統的な習慣を続ける自由があります。しかし、パウロはユダヤ人クリスチャンに、自分たちの伝統的な習慣を続ける自由は救いとは関係ないと警告しました。＜ガラテヤ人への手紙 5 章 1 節-6 節＞に書かれています。

＜ガラテヤ人への手紙 5 章 1 節-6 節＞

1 このように、キリストは私たちが自由の身にしてくださいました。ですから、この自由をしっかりと握っていなさい。もう二度と、律法にがんじがらめになった奴隷とならないよう、細心の注意をはらいなさい。

2 よく聞いてください。これは大切なことなので。もしあなたがたが、神の前で正しい者と認められるには、割礼を受け、ユダヤ教のおきてを守りさえすればいいと考えているなら、キリストに救っていただくことはあきらめなさい。

3 もう一度言います。割礼を受けることで神の恵みを手に入れるつもりなら、それ以外の律法も完璧に守るべきです。そうしなければ、死あるのみです。

4 もしあなたがたが、律法によって神への負債を帳消しにするつもりなら、キリストはあなたがたにとって全く無意味な存在です。あなたがたは、神の恵みからすべり落ちてしまったのです。

5 しかし私たちは、キリストの死によってこそ、罪が取り除かれ、神の前で正しい者と認められることを、聖霊の助けによって確信しています。

6 キリストから永遠のいのちをいただいた私たちは、割礼を受けたかどうか、ユダヤ教の儀式を守っているかどうか、心配する必要はありません。私たちに必要なのは、愛によって働く信仰だけです。

今、主は御自分の民に、御自分の民が主との関係を回復したことを知らせておられます。御自分の民が主との関係を回復した関係とは、エジプトでパロの殺人の手による奴隷状態からイスラエルの民を救い出したとき、主がイスラエルの民に示された関係です。＜ヨシュア記 5 章 9 節＞にイスラエルの民が主との関係を回復した関係をみましょう。

＜ヨシュア記 5 章（8 節） 9 節＞

8・9 主はヨシュアに語りました。「今日わたしは、割礼を受けていないという恥をあなたがたから取り除いた。」それで、この出来事のあった場所はギルガル〔「終わらせる」の意〕と呼ばれ、現在でもそう呼ばれています。割礼を終えたのちも、彼らは傷が治るまで宿営にとどまっていました

注目してください：「ギルガル」はヘブライ語の言葉で「roll（順調に勝ち進む）」を意味する「galal」のように聞こえます。

多くの誠実なクリスチャンが何年もイエス様に従ってきたが、いつの間にか落胆し、親密な関係を保とうとしませんでした。誰かが、あるいは何かが、何年もイエス様に従ってきた多くの誠実なクリスチャンの心を痛みで押しつぶしました。何年もイエス様に従ってきた多くの誠実なクリスチャンは押しつぶされた心の痛みのため、神様を非難したり、単に神様から離れていくように見えました。イエス様は＜ヘブル人への手紙 13 章 5 節＞で私たちクリスチャンを決して捨てず、または、見捨てないと約束されました。

＜ヘブル人への手紙 13 章 5 節＞

神は、こう約束しておられます。「わたしはどんな場合にもあなたの期待にそむかず、あなたを見捨てない。

聖書は＜テモテ人への手紙 2 章 13 節＞でもまた私たちにこう言っています。

＜テモテ人への手紙Ⅱ 2 章 13 節＞

しかしたとえ、信仰をなくしたかと思えるほど私たちが弱くなっても、キリストは真実を貫き、私たちを助けてくださいます。私たちは主の一部分になっているので、切り捨てられることはないのです。そして、主はいつも約束を果たしてくださいます。

だから、神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちをイエス様の近くに引き戻した後、神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちにも個人的なギルガルがあります。神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちは、キリストに出逢って信じて救われた初期の頃のように、私の罪は洗われ、消え去りましたと再び歌うことができます。神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちは今、賛美のように言うことができます。

**神よ、あなたは私の神、私はいつもあなたを賛美します。
わたしは朝、あなたを求め、あなたの道を知ることを学びます。
一步一步、あなたは私を導いてくださいます。
そして、私は私の日々のすべてをあなたに従います。**

神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちは再び、イエス様に従い、一步一步、人生のどんな越えられないヨルダン川も越えていく自由を得ているのです。神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちは、栄光の中でイエス様と顔と顔を合わせるまで、主なるイエス様が導いてくださることを知っています。

祈りましょう、